



平成18年度 春季特別展  
水野理事長・金関館長対談(撮影: 弥生文化博物館)  
「古代の工房」内覧会風景 (撮影: 近つ飛鳥博物館)

寝屋川市立堀溝小学校 体験学習  
郷土の文化財を見学する会 (第3回例会風景)

## もくじ

- |   |   |                                     |  |
|---|---|-------------------------------------|--|
| <p>P. 2</p> <p>P. 3</p> <p>P. 4</p> <p>P. 5</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 就任雑感</li> <li>● 新職員の紹介-平成18年度人事異動-</li> <li>● 評議員会・理事会</li> <li>● 「発掘された日本列島2006」に出展</li> <li>● 指定管理者としての大阪府立博物館の運営開始</li> <li>● 平成18年度文化財講座始まる</li> <li>● 郷土の文化財を見学する会</li> <li>● 茄子作の遺物、韓国で紹介</li> <li>● 海外研究者来訪</li> <li>● 体験学習</li> <li>● 三宅西遺跡現地公開</li> </ul> | <p>P. 6</p> <p>P. 7</p> <p>P. 8</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 記録映画(ビデオ)制作</li> <li>● DVD制作</li> <li>● 日本民家集落博物館 秋の展示/開館50周年記念</li> <li>● トピックス</li> <li>● *池島・福万寺遺跡出土 板状の土偶</li> <li>● 平成17年度刊行図書</li> <li>● 弥生文化博物館 夏・秋の展示ご案内</li> <li>● 近つ飛鳥博物館 夏・秋の展示ご案内</li> <li>● 日本民家集落博物館 催しご案内(8月~10月)</li> </ul> |
|---|---|-------------------------------------|--|

## 就任雑感

専務理事兼事務局長 横山 敏郎

この4月、専務理事兼事務局長として就任しました。公務員生活37年ですが、文化財に係わる業務に携わった経験がありませんでしたので、只今、主に弥生時代・古墳時代に関する岩波新書、中公新書など教養書を中心に乱読的俄か知識を吸収しているほか、趣味である撮影旅の徒然に古墳や遺跡などを訪れています。

現段階における私の文化財に関する実感は、数十年来の寓居が見瀬丸山古墳を借景とし、高松塚古墳へも歩いて15分程、休日の散歩道は「飛鳥周遊歩道」御用達という環境ですので、私にとって文化財とは、歴史的資産、教育的資産というよりも生活的癒し資産といった感です。

さて、当法人を取り巻く社会的環境は、公共事業の抑制という実態的局面を始めとして、先の国会で法制定された公益法人制度改革や、公共サービス効率化法など多々の課題があります。概して厳しい環境下にあると言えますが、こういう局面だからこそ、職務遂行にあたっては常に「何で」という問題意識をもって、「受動よりも能動を基本」戦略に、これらの課題に対してアクティブな思考で、アクティブな動きで、一つひとつ実践を積み重ねてクリアしていくことが大切と考えます。皆さん、共に頑張りましょう。また、公共事業の抑制に関連してだと思いますが、埋蔵

文化財を取り巻く流れの一つに、「発掘から保存・活用へ」という変革の時期にきているともいわれています。

ここで皆さんにお願い(仕事が増えて恐縮ですが・・・)があります。

発掘によって得られた成果を学術的・専門的視点から報告書に纏めること、記録保存のあり方として極めて重要です。これからも続けていただきたいと思います。ただ、これからの展開を考えますと、文化財ということに関して「府民は応援団」というか、多くの人々の関心・興味を引くことも肝要と考えます。ところが、報告書はいずれも学術専門的すぎて、府民の人々にとって、気軽に読もうか、という視点からは「？」だと思えます。

そこでお願いの筋は、これまでの歴史的資産、教育的資産としての記録保存に加えて、私のような「生活的癒し遺産」というのか、「地域社会の文化的資産」としての活用展開を図ることも必要ではないでしょうか。その一つの方策として、報告書に加えて、府民が関心・興味を覚える判りやすいパンフレット、リーフレットの小さな冊子を併せて作成して頂ければと思っていますが、如何でしょうか…。府民に文化財資産を還元し、「府民応援団」を作っていきましょうよ。

## 新職員の紹介 —平成18年度人事異動—

【新たな役職員および派遣職員等】(日付がないものは4月1日付)

### 理事・評議員

横山 敏郎 (専務理事兼事務局長)  
福岡 澄男 (理事兼普及部長)  
東 利也 (評議員) 3月27日付  
永本 定芳 (評議員) 6月23日付  
矢加部英敏 (評議員) 6月23日付

### 派遣職員

#### <大阪府から派遣>

大野 薫 (南部調査事務所長)  
三木 弘 (南部調査事務所調査第一係主査)  
服部 文章 (京阪調査事務所調査第三係主任技師)  
林 日佐子 (中部調査事務所池島支所  
調査第一係主任技師)

横田 明 (京阪調査事務所調査第二係技師)  
西川 寿勝 (南部調査事務所調査第一係技師)

#### <(財)大阪市文化財協会から派遣>

小倉 徹也 (南部調査事務所調査第二係技師)

#### <(財)京都市埋蔵文化財研究所から派遣>

長戸 満男 (京阪調査事務所調査第五係技師)

#### <泉佐野市教育委員会から派遣>

中岡 勝 (中部調査事務所調査第一係技師)

### 新規採用

#### <任期付き職員>

船築 紀子 (京阪調査事務所調査第三係技師)  
湯本 整 (中部調査事務所調査第二係技師)

#### <事務総括>

岩本 重和 (京阪調査事務所)  
猪上 悟 (南部調査事務所)

#### <専門調査員>

和田 大作 (京阪調査事務所調査第一係)  
吉田 綾子 (京阪調査事務所調査第四係)  
赤松 佳奈 (中部調査事務所調査第一係)  
影山美智与 (中部調査事務所調査第二係)  
奈良 拓弥 (南部調査事務所調査第一係)  
水野恵利子 (南部調査事務所調査第二係)  
福田 基樹 (南部調査事務所調査第三係)  
市田 英介 (京阪調査事務所調査第二係) 7月1日付

#### <専門事務員>

徳原 靖子 (総務課総務係)

#### <普及部学芸員>

青柳 佳奈 (普及資料課)  
松下 知世 (普及資料課)

## <指定管理者制度における新体制>

### 一弥生文化博物館一

田淵 惠三 (副館長兼企画管理課長)  
峠 美穂 (企画管理課主任)  
江浦 洋 (学芸課長)  
合田 幸美 (総括学芸員)  
永野 仁 (主任学芸員)  
楠見 修三 (教育専門員)  
東 徹志 (学芸員)  
岡本 智子 (学芸員)

### 一近つ飛鳥博物館一

巽 利文 (副館長兼企画管理課長)  
竹内 秀喜 (企画管理課主任)  
藤田 憲司 (副館長兼学芸課長)  
市本 芳三 (総括学芸員)  
小浜 成 (総括学芸員)  
鹿野 暎 (主任学芸員)  
三又 耕三 (教育専門員)  
小栗 梓 (学芸員)

## 【退職および復職者】(日付がないものは3月31日付)

### 退職された理事・評議員

鳴澤 成泰 (専務理事兼事務局長) 大阪府へ復職  
福田 惇一 (評議員) 5月30日付  
小菅 源治 (評議員) 6月23日付

### 退職者

國乗 和雄 (中部調査事務所池島支所長)  
井藤 暁子 (南部調査事務所調査第二係主査)

### 府等への復職

#### <大阪府へ復職>

真砂郁寿栄 (総務課経理係主事)  
宮野 淳一 (京阪調査事務所調査第一係長)  
三宅 正浩 (京阪調査事務所調査第六係長)  
泉本 知秀 (京阪調査事務所調査第一係主査)  
鈴木 芳則 (調整課設計係主査)  
田淵 惠三 (弥生文化博物館副館長兼管理課長)  
西野 重光 (弥生文化博物館管理係長)  
世良 哲夫 (弥生文化博物館管理係主任主事)  
小田山宏一 (弥生文化博物館学芸課長)  
吉村 健 (弥生文化博物館専門員)  
仲谷 和泰 (弥生文化博物館専門員)  
福井 克次 (近つ飛鳥博物館副館長兼管理課長)  
西野 秀和 (近つ飛鳥博物館管理係長)  
五十嵐和雄 (近つ飛鳥博物館管理係主任主事)  
畠井 浩 (近つ飛鳥博物館専門員)  
藤井 雅乗 (近つ飛鳥博物館専門員)

#### <(財)大阪市文化財協会へ復職>

櫻井 久之 (京阪調査事務所調査第一係主査)  
黒田 慶一 (南部調査事務所調査第一係主査)  
李 陽浩 (京阪調査事務所調査第三係技師)

#### <(財)和歌山県文化財センターへ復職>

土井 孝之 (南部調査事務所調査第一係主査)

## <(財)京都市埋蔵文化財研究所へ復職>

平田 泰 (京阪調査事務所調査第五係主査)  
近藤 章子 (京阪調査事務所調査第二係技師)  
田中利津子 (京阪調査事務所調査第四係技師)

## 評議員会・理事会

平成18年3月27日(月)にホテルアウリーナ大阪で平成17年度第2回評議員会・理事会が開催された。

平成18年度事業計画(案)及び収支予算(案)並びに平成17年度補正予算(案)について審議され、原案どおり承認された。

また、人事案件として鳴澤専務理事の退任に伴い後任に横山敏郎氏が、新理事に福岡澄男氏が選任された。

平成18年6月23日(金)にホテルアウリーナ大阪で平成18年度第1回評議員会・理事会が開催された。

平成17年度事業報告及び収支決算について審議され、原案どおり承認された。

また、人事案件として評議員の福田惇一氏及び小菅源治氏の退任に伴い、後任に永本定芳氏及び矢加部英敏氏が選出された。

## 「発掘された日本列島2006」に出展

本誌32・33号に続き、3度目の登場となる山賀遺跡の「垂飾」形木製品。いよいよ「発掘された日本列島2006」に出展、2006年6月から2007年2月まで、東京、福岡、静岡、山形、福井、大阪、新潟を巡回します。保存処理に万全を期すため、実物は福井以降の展示となります。

弥生時代前期の土坑から出土したもので、共伴した鉢と高杯、同時期の完形壺2点もお供します。

写真下はカットモデル。レプリカ製作者の森田さんが、綿密な観察と精緻な技にちょっとした遊び心を加えて作ってくれたものです。これが、関係者に大好評。5月23日の読売新聞夕刊にも取り上げられ、急遽出展リストに加えられました。

より観察しやすくなった木製品。多くの人々に関心を持って頂き、加えて木製品の機能・用途の解明につながることを願っています。



全国を巡る木製品(レプリカ)とカットモデル

## 指定管理者としての大阪府立博物館の運営開始

大阪府立3博物館のうち、府立弥生文化博物館と府立近つ飛鳥博物館および府立近つ飛鳥風土記の丘は、本年4月1日から指定管理者制度による管理運営が行われることとなり、大阪府による公募が行われ、当センターも応募した。その結果、当センターが指定管理者に選定され、今後5年間、両博物館の管理運営を行うことが決まったのは、昨秋のことであった。

当センターでは応募のときから、両博物館の活動の基本方針として、これまで両博物館が行ってきた方向、すなわち、弥生時代文化研究と古墳・飛鳥時代文化研究のそれぞれの情報発信を引き続き行うことを明言している。

指定管理者に選定されて以来、博物館運営準備室を設け、各種の具体作業を行うなか、本年の春季特別展は、弥生文化博物館が、毎日新聞および毎日放送との共催で「弥生画帖」と題し、弥生時代の絵画を扱い、また、近つ飛鳥博物館では文化庁、読売新聞大阪本社、読売テレビとの共催で「古代の工房」のテーマのもとに、飛鳥・奈良時代の生産体制にスポットをあてることとなった。会期は弥生文化博物館が4月22日（土）～7月2日（日）、近つ飛鳥博物館が4月29日（土）～7月2日（日）。それぞれオープン前日の

金曜日には内覧会を開催して、地元の方々をはじめ関係者にご覧いただき感想をお聞きした。

弥生文化博物館では、会期中に「弥生人が描いた世界」と題する、当センター水野理事長と金閣博物館長による対談と、4回にわたる講演会を行い、近つ飛鳥博物館でも、水野理事長と白石館長による対談「ここに飛鳥時代はじまる」他、4回の講演会を実施し、いずれも好評であった。

「弥生画帖」では、重要資料や最新資料を全国規模で収集・展示し、見えにくい資料については、絵を描きおこして横に配するなど、展示方法を工夫した。「古代の工房」では、滋賀県山ノ神窯址出土の鷲尾や奈良県飛鳥池遺跡出土のガラス他、生産関係遺物をはじめとする重要資料が美しく観やすく展示された。これは、博物館運営準備室で確認された、「内容充実はもちろん、展示の仕方にも工夫をこらそう。」という、当然の基本方針に沿うものである。なお、両博物館では、展示資料を網羅した図録を作成・販売しており、これも好評をえている。

短い準備期間のもとで春季特別展の開催にこぎつけ、ほっとする間もなく、夏季企画展、秋季特別展等々の準備に両博物館のスタッフは忙しい毎日を送っている。



内覧会風景（撮影：弥生文化博物館）



水野理事長・白石館長対談（撮影：近つ飛鳥博物館）

## 平成18年度 文化財講座始まる

文化財講座は、広く文化財の普及および保護思想の高揚をはかるため、学識経験者により講演を依頼しているもので、今回のテーマは『東アジアの古墳壁画の世界』とした。

1972年に奈良県の高松塚古墳から極彩色の壁画が発見されて足掛35年、1983年にキトラ古墳で玄武の図像が発見されて24年、今日では発掘調査により壁画の全体像が明らかになりつつある。今この大切な歴史遺産である古墳壁画が、東アジアの歴史の中で歴史学・考古学・美術史学等からその重要性を考えていきたいと企画した。キトラ古墳の調査成果をはじめ、壁画古墳の歴史上の意義、壁画に表現された世界、壁画の製作技法・様式、大きな影響を受けた中国、朝鮮半島の壁画の世界、古代の天文図が表現する世界、九州の装飾古墳、寺院の仏教壁画の世界を各分野の先生方に弥生文化博物館の1階ホールを会場として10回お話しいた

だくこととなっている。第1回目は6月25日に『壁画古墳にたずさわって35年』と題し、京都橘大学教授猪熊兼勝先生にお話しいただいた。悪い天候であったが、多数の方々が受講され、大変盛況であった。



第1回文化財講座

## 郷土の文化財を見学する会

今年度の「郷土の文化財を見学する会」は、6月までに3回実施しました。

第1回例会（4月30日）では、豊中市域の古墳を訪ね、古墳の分布が中央政権の動向と連動しており、猪名川の東岸の地でも目まぐるしく諸勢力の盛衰が展開したことを参加者に実感してもらいました。また高校野球発祥の地で、九十年余前の煉瓦塀が今なお残る豊中グランド跡地などちょっと意外な歴史の舞台にも立ち寄りました。

京都府八幡市を訪ねた第2回例会（5月14日）では、神仏習合の聖域としての独特の雰囲気の中に、千年にわたって鎮護国家の要として京都を守ってきた石清水八幡宮の強い誇りと自負を感じ取ることができました。

そして第3回例会（6月11日）は大阪城へ。淀君・秀頼の最期にまつわるものなど、城中に数多く残る伝説や俗説のベールをひとつひとつはぎとり、城の真の姿に迫る知的スリルに満ちた例会となりました。（山元 建）

## 茄子作の遺物、韓国で紹介

韓国放送（KBS）では、かつて百済系の渡来人が日本におよぼした影響を探る「百済大好き」という、番組を製作放送しています。昨年8月、「衣食住」をテーマとし、これにかかわる考古資料や研究成果を取材するため、プロデューサーと撮影監督が来日されました。

今回は、茄子作遺跡から出土した織機部材について、インタビュー等の取材をうけました。出土した部材は、絹布を織る原初的な高機で、渡来人によってもちこまれたと考えられています。表面に経糸の擦痕が顕著に残っていたことから、織機の部材であることが判明しました。現在のところ、日本では最古級の出土例として報告されています。

茄子作遺跡は、韓式土器や初期須恵器が出土する渡来色豊かな集落で、織機部材の出土はその特色を強めることとなりました。韓国で紹介されることにより、出土遺物に係る国際的な関心が高まることを、期待しています。

## 海外研究者来訪

平成18年5月16日、茄子作遺跡、上の山遺跡、上私部遺跡から出土した所期須恵器の見学に、立命館大学外国人客員研究員（慶南発展研究員歴史文化センター）の河承哲（Ha Seung Cheol）氏が交野分室に入室されました。

河氏は、伽耶系陶器の研究をされており、日本出土の初期須恵器のなかに、伽耶の文化を見出そうと精力的に活動されています。茄子作・上ノ山の須恵器をご覧になり、新羅系陶器の特色が認められることを指摘されました。また、韓国の調査事情等、楽しいお話をきかせていただきました。

（黒須亜希子）

## 体験学習

平成18年5月8日（月）に、寝屋川市立堀溝小学校の6年生72名が、京阪調査事務所の整理棟の見学にきました。

遺物展示室と整理作業を見学する班、記録ビデオを鑑賞する班、土器を観察し、ワークシートに記入する班の3班に分かれて活動しました。学校では古墳時代を学習しているところで、土器を実際に触ったり近くで見ることができたことや使い方を推測したり自分で土器の名前を考えることがよかった、土器の絵を描くのが楽しかったと、子どもたちは見学アンケートで答えています。今回の見学によって、今まで学んできたことがより深まり、これからの歴史学習についても、今までより以上に興味関心をもって学習していけるものと思われまます。

また、5月15日（月）と16日（火）には東大阪市立池島中学校の2年生3クラス115名が、中部調査事務所池島支所の発掘現場事務所で体験学習をしました。

今回、学校では社会科の歴史の学習を通じて総合学習をさせたいと特別の時間割を組みました。2年生で「歴史」を学んでいる生徒たちは、発掘現場事務所で、パネルや復元模型を使つての池島・福万寺遺跡の概要説明、出土遺物を間近に見ながらそれぞれの遺物についての説明を受けました。そのあと、池島・福万寺遺跡の発掘調査現場に向かいました。洪水が残してくれた人や牛の足跡、くわの跡などをスプーンで砂を除去して確かめていましたが、30分間の予定時間はあつという間に過ぎたようでした。（山岡平和）

## 三宅西遺跡現地公開

平成18年6月6日、松原市所在の三宅西遺跡で現地公開を開催した。本調査は阪神高速大和川線建設に伴うもので、今回の調査では弥生時代中期前半の集落構造が明らかとなった。公開当日は内外から50名ものプロパーの見学者を得て、盛況のうちに終わった。

集落は段丘際の微高地上に小河川を挟んで展開する。竪穴住居・掘立柱建物が検出された居住域、方形周溝墓を検出した墓域、水田畦畔を検出した生産域と、コンパクトにまとまり、その内部構造が理解しやすい。弥生時代中期前半の集落構造を考える上で重要な遺跡である。（河端 智）



三宅西遺跡現地公開風景

## 記録映画（ビデオ）制作

発掘調査の記録映画（ビデオ）は、平成17（2005）年度には4本が完成しました。「北河内発掘 第二京阪道路内遺跡の発掘調査」（11分）と平成17年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金による、「古墳時代の大規模集落～上私部遺跡～」（13分）、「讃良郡条里遺跡～埋もれた井戸の発掘～」（15分）、「羽曳野市 庭鳥塚古墳～すがたを見せた前方後円墳～」（14分）です。いずれもVHSビデオテープとDVDビデオを作成しており、文化財普及のために貸出しています（送料は利用者負担）。

お問合せ先：普及部資料情報係（TEL 072-290-0491）

## D V D 制作

平成16（2004）年度につづき、平成17（2005）年度も文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金による事業として、2本のDVDビデオを制作しました。大阪歴史博物館にて開催したシンポジウムの記録『シンポジウム河内平野における古墳の出現－久宝寺遺跡と加美遺跡－』と寝屋川市民会館で開催した発掘調査成果報告等の記録『北河内発掘！緑立つ道に歴史わきたつ 第二京阪道路内遺跡の発掘調査展と講演会の記録』です。双方ともに、文化財普及のために貸出しています（送料は利用者負担）。

お問合せ先：普及部資料情報係（TEL 072-290-0491）

## 日本民家集落博物館 秋の展示／開館50周年記念

日本民家集落博物館は、昭和31年に飛騨白川の合掌造り民家を移築してから、創立50周年を迎えます。白川村は、荻町集落が世界遺産に登録され、現在でこそ合掌造り民家の町並みが世界中から脚光を浴びていますが、当時は、高度成長期を牽引した全国的な開発のため、都会との交流などによる暮らしの変化、過疎化が進む一方でした。合掌造り民家は、地元住民からは省みられなくなり、都市部へ売却されたり、離村などで荒れ放題になっているものもありました。そのような状況の中、大牧ダムの開発により、ダム湖に水没することになった大牧集落の民家を、ダム開発に携わった関西電力株式会社の地元である大阪の地へ移築保存する計画が持ち上がりました。

大阪のどこへ移築するか選定する際、当時、豊中市教育委員会や、豊中市在住の研究者、市民の方々からの強い希望により、服部緑地内に移築が決定されました。移築に関わる経費は、関西電力株式会社によって寄付され、市民の方々からの募金も集まりました。

このような経緯を経て、我が国初の野外博物館であり、また、企業メセナのはしりとして、豊中市立民俗館という名称で開館し、その後、国内各地の代表的な民家を移築し続け、昭和35年には、博物館法による登録博物館として日本民家集落博物館となりました。

現在、北は、岩手県の南部の曲家から、南は、鹿児島県奄美大島の高倉まで、各地の風土に根ざした独特の様式を持つ民家を全12件移築保存・公開しております。

また、近年の生涯学習・小中学生のための体験学習のニーズが高まる状況の中、昔の暮らしを体感していただける展示として、企画展「春の歳時記」を開催し、当館所蔵の民具資料と大阪府文化財センター保管の考古学資料を展示しました。随時、昔の暮らしをテーマに、四季折々の展示を開催します。

また、ボランティアによる、館内の整備や体験学習活動、民家解説等も、来館者から好評を博しています。

このような中、この秋には創立50周年を迎え、各地の伝統文化を紹介する記念事業を企画しております。以下に事業概要をご案内させていただきます。

### ◆企画展「秋山郷の暮らし」

平成18年10月1日（日）～11月26日（日）

当館に移築されている信濃秋山の民家（国指定重要文化財）の故郷、秋山郷（現長野県栄村）は、豪雪地帯です。江戸後期に秋山郷を訪れた、鈴木牧之による「北越雪譜」や「秋山記行」に記録された雪国の暮らしについて、当館所蔵の民具資料とともに、紹介展示いたします。また、期間中、10月28日から11月18日までの毎土曜日に、秋山郷の暮らしと民俗に関わる連続講座を、地元の方や、研究者をお招きし、開催します。

### ◆椎葉神楽公演（国指定重要無形民俗文化財）

平成18年10月14日（土）～15日（日）

日向椎葉の民家で、民家の故郷である宮崎県椎葉村に伝わる神楽を上演いたします。旧暦の霜月に、収穫祝いと狩猟の無事を祝って夜通し舞われる椎葉神楽には、平安末期の歌謡集「梁塵秘抄」と同じ文言が伝えられていたり、演目の中で、猪の肉を参会者に配り、囲炉裏の火であぶって共食するなど、山村特有の演目が残っています。椎葉神楽は、もとは民家の中で舞われる神楽です。現在、村内27集落の保存会によって伝承されていますが、生活様式の変化等にともない、民家の中で舞われる機会は少なくなっています。当公演では、昔ながらの様式で、民家を舞台に、椎葉ならではの演目を通し公演します。



椎葉神楽（大河内・芝引き）／撮影 黒木光太郎氏

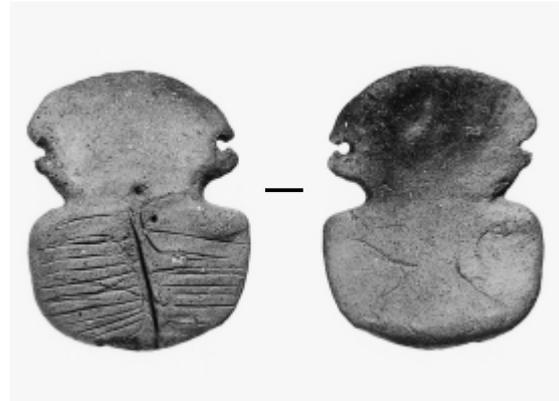
## 池島・福万寺遺跡出土 板状の土偶 >>>

池島・福万寺遺跡04-2調査区の発掘調査では、縄文時代晩期後半から弥生時代前期の墓域が検出された。既往の調査で明らかにされてきた水田遺構を基調とする池島・福万寺遺跡の様相とは若干異なった展開が明らかとなった。全国的にも古い例となる木棺墓や土墳墓が検出されたほか、落ち込み部からは、貝や獣骨などの動物遺体、クルミやクリといった可食植物とともに多量の土器片が出土しており、近傍に集落の存在をおわせる。整理中のため概観ではあるが、突帯文土器が9割以上、遠賀川系土器が1割に満たないという土器構成である。

ここに紹介する板状の土偶は、縄文時代晩期から弥生時代前期の包含層から出土した。簡略化され抽象的な表現手法を用い、その形状は弥生時代中期の分銅形土製品を思わせる。中央部のくびれ、正中線、口、耳と解される表現から、人体、それも女性をモチーフとした造形であろう。正中線は、強く線刻され、強調されている印象を受ける。顔と思われる部分には口、耳なし耳飾と取れる表現があり、口は浅い刺突、両耳部は穿孔によって表現されている。反対面の下半部に

も浅い線刻が数条、施されている。

本調査区からは、この板状の土偶をはじめ、台式土偶、石棒、ミニチュアの壺、装身具など、当該期の精神世界を反映する遺物が多数出土している。今後、整理作業、周辺の調査の進展とともに、河内潟東岸における縄文文化と弥生文化の邂逅の様相が明らかにされることを期待したい。(池島支所 鬼頭 彰)



8a層出土 板状の土偶

## 平成 17 年度 刊行 図書

- |   |  |
|---|--|
| (1) 小阪合遺跡 (その3)   | (22) 2005年度(財)大阪府文化財センター・弥生文化博物館<br>共同研究発表会『弥生後期集落の景観的研究』                  |
| (2) 弓削ノ庄遺跡 他  | (23) 財団法人大阪府文化財センター・民家集落博物館・<br>大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館<br>2004年度共同研究成果報告書 |
| (3) 福井遺跡  | (24) 古式土師器の年代学   |
| (4) はざみ山遺跡  | (25) 大阪文化財研究 第28号  |
| (5) 伽羅橋遺跡Ⅲ  | (26) 同 第29号  |
| (6) 上の山遺跡Ⅰ  | (27) 年報 平成16年度   |
| (7) 讃良郡条里遺跡Ⅳ  | (28) 民家集落ふるさとだより No.26   |
| (8) 童子畑遺跡・童子畑北遺跡  | (29) 同 No.27   |
| (9) 禁野本町遺跡  | (30) OCCH No.31 (31) 同 No.32 (32) 同 No.33                                  |
| (10) 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅲ  | (33) カルチュアはっとりNo.7 むかしの道具 1. 農具  |
| (11) 小路遺跡Ⅲ  | (34) カルチュアはっとりNo.8 ここまでわかった考古学<br>はたおりの歴史展-古代の織物生産を考える-                    |
| (12) 太秦遺跡・太秦古墳群Ⅱ  | (35) ここまでわかった考古学<br>弥生ムラの風景-八尾南遺跡の最新成果-                                    |
| (13) 大坂城址Ⅲ  | (36) ここまでわかった考古学 太秦古墳群発掘調査成果   |
| (14) 池島・福万寺遺跡発掘調査概要32   | (37) 北河内発掘! 緑立つ道に歴史わきたつ  |
| (15) 池島・福万寺遺跡発掘調査概要33   | (38) 北河内発掘! 緑立つ道に歴史わきたつ<br>第二京阪道路内遺跡の発掘調査講演会 発表資料                          |
| (16) 池島・福万寺遺跡発掘調査概要34   | (39) シンポジウム「河内平野における古墳の出現」<br>-久宝寺遺跡と加美遺跡-要旨集                              |
| (17) 平成17年度文化財講座資料『魏志倭人伝の世界』                                  | (40) シンポジウム「世界の文化遺産を語る」<br>-多様な文化の共生に向けて-発表資料                              |
| (18) 大阪府埋蔵文化財研究会(第51回)資料                                      |  |
| (19) 大阪府埋蔵文化財研究会(第52回)資料                                      |  |
| (20) 2005年度(財)大阪府文化財センター・日本民家集落博<br>物館共同研究発表会『住居に関する総合的研究(4)』 |  |
| (21) 2005年度(財)大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館<br>共同研究発表会『須恵器生産の成立と展開』      |  |

## 弥生文化博物館 夏・秋の展示ご案内

### 夏季企画展示

「とんぼ玉100人展 一魂のきらめき 現代作家とそのたまごたち」

■開催期間 平成18年7月15日(土)～8月6日(日)

■主催 大阪府立弥生文化博物館 日本ランプワーク協会  
とんぼ玉100人展実行委員会

■後援 和泉市 和泉市教育委員会 (財)大阪21世紀協会

■会期內行事 招待作家による実演・制作体験

7/15(土) 16(日) 17(月祝) 22(土) 23(日)

7/29(土) 30(日) 8/5(土)

実演 10:00～12:00 制作体験 13:30～15:30

制作体験参加費¥500 (ただし30日は午後も実演)

当日先着順・各回20名まで・1人約20分・小学生以上

※順番にお作りいただきますので、少々お待ちいただく場合があります。

■関連展示 富木車塚古墳出土トンボ玉(首飾り)

### 秋季特別展 一池上首根遺跡史跡指定30周年記念

「弥生人 躍動す一池上首根と吉野ヶ里」

■開催期間 平成18年10月7日(土)～12月3日(日)

■主催 大阪府立弥生文化博物館 文化庁  
産経新聞社 関西テレビ放送

■協賛 株式会社 国際交流サービス

■後援 財団法人 大阪21世紀協会

■会期內行事

講演会 11/3(金・祝) 14:00～16:00

考古学セミナー 10/9(月・祝) 11/19(日) 12/3(日)

いずれも14:00～16:00

調査成果報告会 10/21(土) 28(土) 11/25(土)

いずれも14:00～15:30

お問い合わせ:0725-46-2162

## 近つ飛鳥博物館 夏・秋の展示ご案内

### 夏季企画展示 古代の生活を探る

夏休み親子で学ぶ『むかしの台所いまの台所』

電化製品の普及で様変わりしてしまった台所まわりの風景を題材として、食器や鍋釜などさまざまな道具で大きく変わったもの、あまり変わらなかったものから食生活や生活習慣の変化、その社会背景を親子で考えてもらう展示です。会期中には、イラストレーターの早川和子さんとのお絵かき教室など、さまざまな催し物もあります。

■期間:平成18年7月22日(土)～9月3日(日)

■開館時間:午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

■入館料:大人300円 65歳以上・大学・高校生200円

中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料

(夏季展、秋季展とも団体(20名様以上)は2割引)

### 秋季特別展 「修羅」重要文化財指定記念

『応神大王の時代一河内政権の幕開け』

当館に展示している「修羅」が重要文化財の指定を受けたことを記念して、古市古墳群の応神陵古墳と応神大王の時代にスポットをあて、当時の政治変動と社会変化を河内政権の動向と関連付けて展示します。会期中には、講演会、セミナーなどの各種催し物を予定しています。

■期間:平成18年9月30日(土)～11月26日(日)

■開館時間:午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

■入館料:大人600円 65歳以上・大学・高校生400円

中学生以下・障害者手帳をお持ちの方無料

詳しくは博物館までお問い合わせください。

電話 0721-93-8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>

## 日本民家集落博物館 催しご案内(8月～10月)

◆鉄道模型遊び 8/1(火)～6(日)10:00～15:00

Nゲージの鉄道模型運転会を行います。模型やレールを持っている人は持ってきてください。(ない人も参加できます。)運転会で技術の競い合いや情報交換など楽しいひとときを過ごしましょう。

◆糸紡ぎ体験 8/26(土)～27(日)10:30～11:30

「飛騨白川の民家」にて、「養蚕体験」でできた繭から糸を紡ぎます。絹糸の感触の体験をぜひどうぞ。また、昔の「衣」について考えてみましょう。

◆竹細工教室 8/26(土)～27(日)10:00～12:00

館内の竹を伐り、小物作りにチャレンジしましょう。

◆企画展示「日本の暮らしー秋の歳時記ー」9/3(日)～24(日)

(財)大阪府文化財センター保管の考古資料と、当館所蔵の民具資料を合わせて展示し、日本の暮らしについて考えます。今回の展示では、稲作の収穫作業について考えます。

◆企画展示「秋山郷の暮らしー北越雪譜の世界ー」

10/1(日)～11/26(日)

信濃秋山の民家の故郷である秋山郷の暮らしについて、当館所蔵民具を含めて展示紹介します。期間中の10/28, 11/4, 11/11, 11/18に連続講座を開催します。

◆椎葉神楽公演(重要無形民俗文化財)

10/14(土)～15(日) 各回とも観覧料500円。

14日、14:00～15:30・16:00～17:30

15日、10:00～11:30・12:30～14:00

当館創立50周年を記念して、日向椎葉の民家にて、宮崎県椎葉村大河内神楽保存会の皆さんを招いて神楽公演を開催します。椎葉神楽は、古くは民家の中で夜通し舞われていました。現地の昔ながらの様式に準じて、民家の中で舞い、各回とも椎葉神楽の中で代表的な演目を上演します。

(お問い合わせ:06-6862-3137)